



深草徹の「ここがポイント」

「日米同盟」

深草 徹



「日米同盟」という言葉が、はじめて公式に用いられたのは、1981年の鈴木（善幸）・レーガン首脳会談後の日米共同声明でした。このとき鈴木首相は、記者の質問に答えて、「日米同盟」という言葉に軍事的意味はないと釈明をしました。日本国憲法を、それなりに理解していた鈴木首相は、そう釈明するほか、なかったのでしょうか。しかし、外務省は、この釈明にスタモンダの大騒ぎ、伊東正義外務大臣は辞職してしまいました。

思えばはるかかなたに來たものです。今日、安倍政権の下で、「日米同盟」は、日米軍事一体化そのものとなっています。

軍事力によって国際秩序の安定をはかることを国是とするアメリカと、戦争放棄と戦力不保持を宣言し、諸国民の公正と信義に基づく国際平和を希求することを誓う憲法をもつ日本とが、軍事一体化するのは、どう考えても不可解と言わざるを得ません。

米朝首脳会談を経て、北東アジアの安全保障環境が大きく変わろうとしている今、私たちがなすべきことは、日本国憲法に即して現実を変革すること、即ち「日米同盟」からの脱却を模索することではないでしょうか。

(深草憲法問題研究室主宰、九条の会.ひがしなだ共同代表)

「モンダンヨンピルコンサート in 兵庫」

フィナーレで舞台と観客が一体に 大成功の取り組み、ご協力に感謝

新原 三恵子



舞台とスタッフ、観客が一体となった感動のフィナーレ 大成功の取り組みとなりました。

6月29日（金）の夕刻、折からの雨をものともせず、神戸文化ホールにおいて「モンダンヨンピルコンサート in 兵庫」が開催されました。

900人収容の全指定席は、前売りで、いち早く完売。オープニングの朝鮮高校生による吹奏楽から、舞台と観客が一体となったフィナーレまで、「感動した」「平和について考えさせられた」などの声が、数多く寄せられるなど、

韓国のNPO法人「モンダンヨンピル」は、東日本大震災を契機に、「朝鮮学校の窮状を何とかしたい」、との思いから、立ち上げられました。

チャリティコンサートは、これまで国内外で数多く開催されてきましたが、今回は、民族教育の出発点となった、記念すべき阪神教育闘争の地・神戸での開催が実現したのです。

この間、南北会談もあり、高校無償化差別の問題とも相まって、多数の出演アーティストで盛り上がった舞台となりました。

全収益を朝鮮人学校に寄付、という趣旨に賛同して、参加者からは公演終了後にも、15万円ものカンパが寄せられました。

歴史を切り開く希望を感じることでできた取り組みとなったこと、ご協力に感謝の念でいっぱいです。

(「モンダンヨンピルコンサート in 兵庫」実行委員会)

特別寄稿

船乗りは平和を望む

藤丸 徹

戦争中、大型の商船のほか、漁船など数多くの民間船が強制「徴用」され、兵隊や軍需物資を輸送した結果、88%の船が撃沈され、海のモクズと消えました。それらの船舶に乗り組む船員の死亡率は、陸・海軍の軍人の約2倍になりました。

だからこそ、船乗りたちは戦後いち早く、全日本海員組合をつくり、生活と権利を守るとともに、戦争反対・平和運動に力を入れてきたのです。

ところが今、戦時中の悪夢が、よみがえろうとしています。2015年に、戦争法（安保法制）が、強行「成立」させられて以来、防衛省は、「武力攻撃事態」等に対処することを目的に、防衛出動に際して、武器・弾薬・戦車・特殊車両や自衛隊員を迅速に目的地(戦地)へ運ぶため、民間のカーフェリーと船員を運用する新たな制度をスタートさせました。一昨年、商社や船会社など8社で特別目的会社「高速マリン・トランスポート」を設立、民間船員を「予備自衛官補」として採用し、戦争に駆り出す、事実上の「戦時徴用」の再来です。

こうした実態を学ぶ学習会が、市民アクション東灘の主催で7月21日（土）に開催され、関心呼び覚ましました。

(元全日本海員組合教宣部長)

私のひと言

石が叫ぶように

奥野泰孝

私は「大阪府国旗国歌条例」下、「君が代」不起立で戒告や減給処分受け、闘っています。キリスト者として、信仰を顧み、社会での少数者の在り方を考え、視野が広がりました。少数者も多数者も、孤独でたった一人の貴重な存在ということに変わりなく、その自覚のもとに、自他の違いを認め、尊重することが大切と思います。

イエス・キリストの時代、苦しい生活の下で、預言されていた救世主イエスのエルサレム入城に、大勢の人が喜んで騒ぎます。それを快く思わない宗教指導者が、イエスに「黙らせてください」と訴えますが、イエスは、「もし、この人たちが黙れば、石が叫びだす」と答えます。

私たちは黙ってはいけません。また、石でも叫ぶなら、尚更、理不尽に対して人は叫び、行動し続けて生きるべきと思います。義務感でずっと動くのは大変です。寝たり食ったりするのと同じように、自由のために闘うのです。それが地上での、人生のあり方と思っています。

(大阪府教員、クリスチャン)



ハナ絵モンの思い③

「私でもできること、私だからできること」

市川（関本）英恵

ここ2年で訪れたところ。広島、沖縄、福島、長崎、祝島……。行ける時に行こうと、少ない貯金を使って、思い切っ
て行ってきました。現地に行く意義は大きくて、平和への思
いが強くなりました。それに、例えば座り込みのように、現
地でしかできない活動もあります。でも、お金も時間も限ら
れるなかで、定期的に行くことは難しいですね。

沖縄の人に、「私には何ができますか」と聞くと、「現地で
見たことを、あなたが住んでいる地域で伝えてほしい」と言
われました。私の隣にいる人に伝えるのは、私でもできるこ
と、私だからこそできることかもしれません。現地に行けなくとも、できることを模索していきたいも
のです。

ちなみに、私は Facebook で発信することが多いのですが、同世代は全くと言っていいほど、私の投
稿に「いいね！」を押してくれません。でも、実は見てはいるようで、私がどこに行っていたのかは知
っています。「いいね！」の数にこだわらず、きっと見ていると信じて、私の平和への思いも投稿し続
けます。

（「憲法の歌」作詞者、神戸合同ひまわりの会世話人）



檻の中のライオン憲法講座 第5回

ライオンは檻の中へ～立憲主義 檻を作るのは私たち～国民主権

椋大樹

ライオン（＝国家権力）を檻（憲法）に入れておけば、私たちは安心です。
これが「立憲主義」です。

檻を作るのは誰でしょうか？

明治憲法は、ライオンが作った檻でした（欽定憲法，天皇主権）。しかし、
それではライオンに都合よく作られてしまいます。

天皇機関説事件，治安維持法，軍部の暴走など，ライオンが檻から抜け出し
てしまいました。

この檻は、私たちを守る，私たちのための檻ですから，私たちが作りましょう。この考え方が「国民
主権」です。私たちがライオンに、「あなたの権力は，私たちが作った檻の中だけです」と約束させ
ます。

ですから，ライオンが檻の中で（憲法に適合する）法律を作ったら，私たちは守らないといけません。
逆に，檻から出たライオンは無視して構いません。憲法違反の法律は，守らなくてもよいわけです（憲
法 98 条）。【参照『檻の中のライオン 憲法がわかる 46 のおはなし』椋大樹著】

（はんどう・だいき、明日の自由を守る若手弁護士の会、ひろしま市民法律事務所）



感動的な「沖縄」学習会

西宮の九条運動の主軸を担って

西宮教職員九条の会は、その名の通り西宮ゆかりの教職員によって、2007年1月に結成され、会報の発行も含め、粘り強い運動の積み重ねで、今では事実上、九条の会西宮ネットワークの中心的存在となっています。

6月24日（日）には、琉球大学の上間陽子教授（教育学）を招いて、「沖縄から語る憲法9条の心」をテーマに、学習会を開催。

東京での調査・研究を経て、生まれ故郷の沖縄に戻り、いま普天間に住む上間さんは、1972年の「本土復帰以前よりも、以後の方が、基地が増えた」という現実の中で、憲法以前の深刻な貧困、米軍だけでなく凄まじい男社会の暴力、性風俗の世界での生活を余儀なくされる少女たちの実態などを、綿密な調査をもとに報告。「本土から来て、辺野古で座り込んで闘った気になるよりも、いま住んでいる所で集会を開き、闘って欲しい」という叫びが心を打ち、熱心にメモする石川康宏・神戸女学院大学教授や、涙ながらにスピーチする教職員組合の女性役員の姿が、とても印象的でした。



住吉山手から

日本国憲法は誰のもの

公庄 れい

ある統計によると、第二次世界大戦による戦死者の数は、世界で7679万人とある。が、戦傷も含めて、何らかの傷を心身に受けた人達は、この数倍に達するであろう。

そういう人達の、「もう戦争はイヤ」という想いの結晶が、“不戦”を掲げた日本国憲法ではないだろうか。

19世紀の終り頃からの、東洋の島国日本のエネルギーの噴出が一端となった第二次世界大戦。あれだけの被害が無ければ、自国を守るために戦争という手段には頼らない、というような思い切った憲法は、生まれなかったであろう。

ひとつの国の、一時期の政府が云々するには、重すぎる憲法ではないか、と私には思える。

性被害を受けた女性たちのすすり泣きが、今も私には聞こえる。

（孫たちの将来を案じるお婆ちゃんの会）

カンパの郵便振替口座

口座記号 00900-6
番号 0217129
名義 九条の会. ひがしなだ



(N)

カジノを含む統合型リゾート実施法が与党などの賛成多数で可決、成立しました。
公文書改ざん・廃棄や森友・加計学園疑惑にまともに答えなければ、か、この強行です。
日本はどうなるのかとの思いを強くしました

編集後記